

# 2022 年度聖学院大学自己点検・評価 総括

聖学院大学内部質保証推進 IR 委員会

## ① 2022 年度聖学院大学自己点検・評価 概要

### (目的)

聖学院大学は、聖学院大学 内部質保証推進 I R 委員会内規第 1 条第 1 項に定める「大学学則第 2 条に定める本学の設立目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動等の状況を把握したうえで、教育研究の改善に努めること」を目的とし、自己点検・評価を実施する。

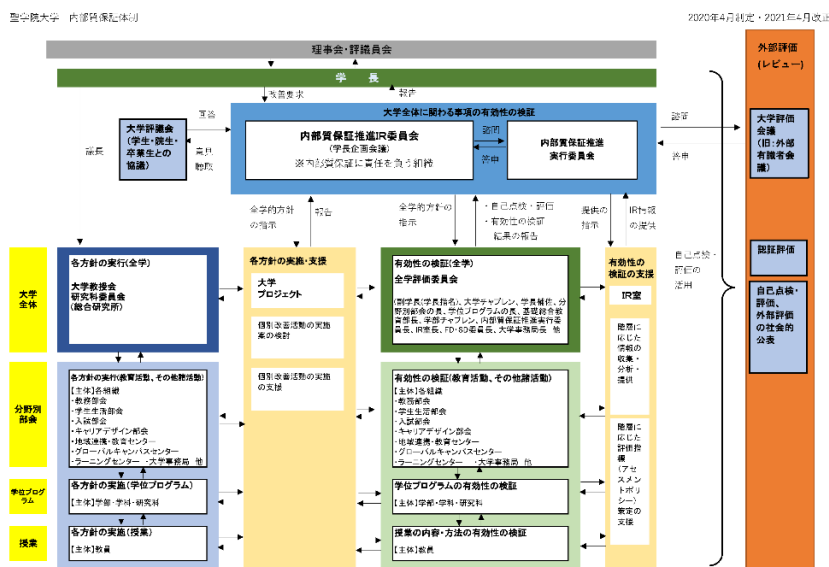
### (体制)

聖学院大学における自己点検・評価は、聖学院大学 内部質保証推進 I R 委員会内規第 11 条第 1 項に定めるとおり、内部質保証推進 IR 委員会から全学的方針の指示を受けて設置される全学評価委員会が実施する。各組織は、全学評価委員会の指示を受け、それぞれ所管する事項について、自己点検・評価を実施する。全学評価委員会構成員は、聖学院大学内部質保証推進 I R 委員会内規第 11 条 3 項により組織される。

### (自己点検・評価制度)

聖学院大学内部質保証推進 I R 委員会内規第 2 条のとおり、自己点検・評価は本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備に係る組織の全てにおいて実施し、各組織は、I R 室より提供される客観的な根拠資料又はデータに基づき、教育研究等の状況を組織的かつ定期的に把握し、改善に努めることとしている。

2020 年度より本学は新たな内部質保証体制を構築した。2021 年度、内部質保証推進 I R 委員会より諮問を受けた内部質保証推進実行委員会は「聖学院大学アセスメントポリシー」の内容を含めた部署別の自己点検・評価項目を作成し、この項目を中核として内部質保証推進 I R 委員会は自己点検・評価制度を改定した。2022 年度は、この自己点検・評価の実施 2 年目となる。



## ② 2022 年度自己点検・評価 実施内容

2022 年 2 月 16 日内部質保証推進 IR 委員会決定の自己点検・評価制度に基づき、以下の通り自己点検・評価を実施した。

### I、各組織の自己点検・評価（2023 年 3～5 月）

- ① 全学的観点から設定された部署別の自己点検・評価項目により自己点検・点検を実施。
- ② ①を踏まえて当該年度のアジェンダを総括。評価が 3～5 の場合は必ずコメントする。
- ③ ②を踏まえて新年度のアジェンダ（改善計画）を作成。

自己点検・評価項目には「聖学院大学アセスメントポリシー」の内容を含め、アジェンダをより総合的にしている。また自己点検・評価項目は、1. 教育研究組織 2. 入学者選抜、3. カリキュラムの内容・学修方法・学修支援又は学修成果（教育課程・学修成果）、4. 学生支援、5. 社会との接続 6. 施設・設備とした。

また、上記に加えて、2022 年 12 月・2023 年 2 月内部質保証推進 IR 委員会において、以下の点を変更することを決定した。

- ・ 2022 年度末に実施する自己点検・評価/アジェンダ作成の際に、自己点検・評価シートに各組織に関する「法人第 2 期聖学院ビジョン実行プラン」を項目追加し、2023 年度アジェンダを執筆する。
- ・ 法人実行プランの実施組織のうち、大学自己点検・評価項目がない組織（学長企画会議、教育開発センター、大学広報センター、サステイナビリティ推進センター、IR 室の 5 組織について、新たに自己点検評価項目を策定し、自己点検・評価・2023 年度アジェンダ執筆を行う。
- ・ 評価指標(PROG テスト)の変更に伴うアセスメントポリシー・評価基準を変更する。（ただし、2025 年度にデータの用意ができることから、2022 年度は変更の予告のみとして、2023 年度に変更を検討する）

### II、全学評価委員会による自己点検・評価の確認評価（改善案を含む）（2023 年 5～6 月）

I で行われた各組織の自己点検・評価を、全学評価委員会により確認・評価を行い、全学評価案を内部質保証推進 IR 委員会にて審議し改善指示を取りまとめた。

### ③ 2022 年度自己点検・評価の確認結果・改善指示

#### 1. 全学評価委員会による自己点検評価の確認結果

各組織の自己点検・評価内容について、全学評価委員会が確認を行った結果、自己点検・評価内容は概ね妥当であると判断された。また、一部の評価について、再度確認を指示し、評価内容を変更した。

#### 2. 全学評価委員会による 2022 年度アジェンダ総括・2023 年度アジェンダの確認結果及び所見(指摘・改善への助言)

各組織の 2022 年度アジェンダ総括・2023 年度アジェンダ、聖学院ビジョンに対する 2023 年度自組織プランについて、全学評価委員会が確認を行った結果、概ね妥当であると判断された。

また 2022 年度アジェンダ総括・2023 年度アジェンダ及び聖学院ビジョン自組織プラン(2023 年度)への指摘・改善への助言は以下の通りである。

##### 所見(指摘・改善への助言)【学長企画会議】

(2023 年度アジェンダ)

学長企画会議に関する内規の改訂によって、責任主体、手続きの明確化を進めていただきたい。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023 年度))

掲げられた各自組織プランの着実な遂行に期待する。

##### 所見(指摘・改善への助言)【政治経済学部】

(2022 年度アジェンダ総括)

アドミッション・ポリシー (AP) の見直しが行われ、2024 年度入試から採用される状況である。新しい AP のもとに行われた入試結果および修学状況をもとに、AP の検証を継続してもらいたい。

(2023 年度アジェンダ)

新 AP の検証が行われるということであるが、適切に学内で情報共有がなされ、第三者的な視点を含め検討が行われることが望まれる。

DP ルーブリックの実施がなされた後の検証のあり方についての計画がたてられ、そのもとに学位授与方針の設定の適切性や教育課程の編成の整合性の検証作業が実施されるとよい。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023 年度))

中・長期的な目標を踏まえて、各年度で着実に実行されることが望まれる。

2023 年度は DP ルーブリックの実施と検証作業の開始となるが、学修成果の可視化とそれに基づく教育の質向上に資するよう計画を立てられるとよい。

##### 所見(指摘・改善への助言)【人文学部】

(2022 年度アジェンダ総括)

2022 年度アジェンダ総括の内容は概ね妥当である。特に、3 学科を有する学部としてのそれぞれの特色を社会の動向に照らして発揮するうえでのご苦勞のなか、濃淡をつけた取り組みをしており、次

年度へ持ち越す課題も明確に把握している。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))

自組織プランにおいて、3つのポリシーの見直しが掲げられており、適切と判断される。

#### 所見(指摘・改善への助言)【心理福祉学部】

(2022年度アジェンダ総括)

定年退職者の補充に加えて、さらなる充実を図るための人員の確保がなされており、適切と判断される。

(2023年度アジェンダ)

社会の要請が高まっていることをうけて人間力を基盤とした専門職業人要請の充実に言及しており、その具体的な実行が期待される。

また、一学部一学科という現状との整合性をとる動きが挙げられていることも適切である。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))

学部の設置理念の検証および一学部一学科という体制にあった方針の見直しが挙げられており、適切と判断される。

#### 所見(指摘・改善への助言)【基礎総合教育部】

(2023年度アジェンダ)

「聖学院大学 基礎総合教育部会内規」の改定、特任講師採用の募集から採用の承認に至るプロセス策定、といった制度面の整備が着実に進むことが望まれる。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))

01A3(英語教育の強化)については、英語教育委員会、ラーニングセンターとの連携のうえ行われていること、01A4(社会的・職業的自立に必要な能力や態度の育成)、01E2(高校の情報科必修に対応した大学教育課程の改正推進)については、基礎総合教育部のカリキュラム・ポリシーに則って進められていることから、適切と判断される。

#### 所見(指摘・改善への助言)【政治経済学部政治経済学科】

(2022年度アジェンダ総括)

Q4(新入生の学力)については、2023年度入試の結果(合格ラインの課題など)についての分析を記述されると課題の背景がより闡明になると考えられる。

(2023年度アジェンダ)

Q4(新入生の学力)は、2022年度総括の分析を踏まえることで、より具体的な「改善」のためのアプローチを記述できると考えられる。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))

概ね妥当である。カリキュラムの対応や社会人の受け入れにはリカレント教育、履修証明プログラムの見直しおよび実行、サステナビリティ推進センターと連携した高大連携の充実といった具体策が盛り込まれており、適切と判断される。

## 所見(指摘・改善への助言)【人文学部欧米文化学科】

(2022 年度アジェンダ総括)

教育課程に関して、2023 年度入学生から新カリキュラムによる教育を実現させるなど、改革を進めたことは評価できる。Q14 にみられる学修計画に沿った在学生の学修については、引き続き改善が望まれる。

(2023 年度アジェンダ)

123A 生から実施の新教育課程での学修成果検証、学科 FD 研修の実施、在校生の総修得単位数について学科内で情報共有を推進するなど、課題に向き合う施策が示されたことを評価する。その効果のモニタリングを継続することを期待する。

## 所見(指摘・改善への助言)【人文学部日本文化学科】

(2022 年度アジェンダ総括)

所見(指摘・改善への助言)【その他】項目において、「3 教育課程・学修成果」などを中心に、進路決定率の低さや、「実践力」「数量的スキル」をいかに身につけさせるかという点についてしっかりと総括が行われている。日々の教育における目標の明確化、「卒業論文」につなげることでの実践力の涵養など 2023 年度以降に成果がみられることを期待する。

(2023 年度アジェンダ)

入学者の受け入れ方針などは明確なものを保持していることがうかがえるので、カリキュラムの見直しによる専門教育の充実の点と連動することが期待される。

カリキュラムの見直しは一定の完成がみられながらも、継続されることが示されており、適切である。見直し前後での比較などの成果を含めて見直しが継続されることを望む。

進路決定率(Q18)については厳しい結果となっており、「総括」はなされているが、2023 年度のアジェンダには取り上げられていない。「総括」を踏まえつつ、具体的な検討や対応の在り方について言及されたほうがよい(実行プランの「01 A4」に記載の事項は関連するところがあると思われる)。学生が身につける能力として、「数量的スキル」は学科の特色から容易でないことは「総括」を含めて理解される。長期的な対応を図るとされているので、長期的な目標のもとに各年度で具体的にどのように対応されるか計画が立てられるとよいだろう。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023 年度))

「01 H3」にある高大連携はすでに具体化されているプログラムがあり、さらなる進展が期待される。その他の項目についても、状況をふまえてつとというところがありながらも、具体的な目標設定のもとに着実な実行が望まれる。

## 所見(指摘・改善への助言)【人文学部児童学科/子ども教育学科】※2023 年度子ども教育学科に名称変更

(2022 年度アジェンダ総括)

諸課題に対して、具体的な施策を立案していることを評価したい。学科名変更に関連して見直しを行った、学生の受入方針がどのように学生に受け止められているかの検証を期待する。

(2023 年度アジェンダ)

諸課題に対して立案された施策を、継続して実施するとの方針は理解できる。それら施策の成果を継続的に検証することを期待したい。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))

項目について、具体策が盛り込まれており、適切と考えられる。今後、継続した検証が望まれる。

#### 所見(指摘・改善への助言)【心理福祉学部心理福祉学科】

(2022年度アジェンダ総括)

基礎学力の弱さ(Q4)、定められた修業期間での卒業の割合の低さ(Q16)、進路決定率の低さ(Q18)に厳しい状況があるが、適切に課題として認識されており、次年度に向けた検討がなされていることがうかがえる。

(2023年度アジェンダ)

「2022年度アジェンダ総括」でとりあげられている課題に対して、その対応が述べられている。学科内での対応に加え、学内各部署との連携を図り、改善がなされることが望まれる。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))

留学生の増加についての数値目標など、どの項目についても具体的な内容が示されており、適切と判断される。

#### 所見(指摘・改善への助言)【政治政策学研究科】

(2022年度アジェンダ総括)

本学の理念・目的との整合性、学問の動向や社会の要請との適合をはじめ、すべてにおいて自己評価は「2」にとどまっていることも確かである。今後も見直し・改善を進める必要がある。

(2023年度アジェンダ)

変更されたAPの効果についての検証が行われることは重要であり、ある程度の結果が得られたところで、学内で共有され、多様な観点よりさらなる検証が進められるとよい。

#### 所見(指摘・改善への助言)【文化総合学研究科】

(2022年度アジェンダ総括)

Q2の「社会の要請」との適合については、当該学問領域に特有の困難さがあるが、その点について言及され、いかにバランスをとるかが明確に課題として挙げられている。指摘・改善への提案として、「入学者選抜」について、在学生比率は前期課程、後期課程ともに厳しい状況であるが、FDで議論が行われ、そこからマッチングの問題などが研究科内で共有されている。「改革」のロードマップが確定したということで、今後の改革の実行が期待される。

(2023年度アジェンダ)

2022年度に確定された「改革」のロードマップの実行について、他の研究科との情報共有も含みながら着実な実行がなされるとよい。

「入学者選抜」においては、受験相談のあり方や入学者選抜方法の検証が取り上げられており、継続した検証を経て厳しい現状を脱却する一步となることを期待したい。

教育課程の編成として、教員組織を最大限に活用できる指導体制を整えるということで、それが広報

活動などとも一体化して展開されることで、入学者選抜への好影響も期待されるだろう。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))

「2023年度アジェンダ」に示された教育課程の充実化が挙げられているが、学修成果のデータを踏まえて今後継続して検証がなされることが望まれる。「紀要」での公表とともにそれらのデータの情報公開の在り方についての議論も行われると、教育課程編成の妥当性の公表にもつながり、入学生の確保といった循環につながれるとよい。

#### **所見(指摘・改善への助言)【心理福祉学研究科】**

(2022年度アジェンダ総括)

大学院・学部を一体とした改善策、具体的な指針が示されており、2023年度アジェンダによれば、諸課題のうち2022年度に解消されたものも多く、適切と考えられる。

(2023年度アジェンダ)

研究科アドミッション・ポリシーの確認を出発点として、残る課題について、着実に改善していくことが期待される。

#### **所見(指摘・改善への助言)【総合研究所】**

(2022年度アジェンダ総括)

内容は概ね妥当である。特に2022年度のアジェンダにもとづいて研究推進委員会が設置され運用が開始されたことは重要な成果と考える。

#### **所見(指摘・改善への助言)【グローバルキャンパスセンター】**

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))

留学再開と実際の状況を鑑み、留学生支援や中・長期的な留学プランの策定を実行するのが望ましい。

#### **所見(指摘・改善への助言)【ラーニングセンター】**

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))

ラーニングセンター改修プランを着実に実行することが望ましい。

#### **所見(指摘・改善への助言)【ボランティア活動支援センター】**

(2023年度アジェンダ)

地域貢献・教育・研究をカバーする活動を企画しており、学外との連携体制の強化も十分に視野に入っている。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))

新ビジョンとの関連においても具体的な活動案が記載されている。

#### **所見(指摘・改善への助言)【地域連携・教育センター】**

(2023年度アジェンダ)

当該センター内規における所長の兼務規定廃止について、今年度中の改定が望まれる。また、副セン

ター「若干名」について、現状に合わせ、他のセンター同様「1名」とすることも、併せてご検討いただきたい。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))

高校出前授業の実施や他部署との連携による県内の高校への発信検討、「東北スタディツアー」の実施にあたり県内の高校及び、法人内の聖学院中高、女子聖学院中高との連携を再開されることを期待する。

#### 所見(指摘・改善への助言)【広報センター】

(2023年度アジェンダ)

「規程・内規に基づき、適切に業務を遂行する。」とあるので、関連する規程・内規を早期に制定されるよう期待する。

#### 所見(指摘・改善への助言)【IR室】

(2023年度アジェンダ)

BIツール(Tableau)の導入を検討しているとのことだが、費用対効果の観点からも、入試・広報課や他部署でも利用できるようにし、例えば経費の折半を検討しても良いのではないかと。

IR室内規改正を検討することだが、その際、第3条(組織)について、「室員」は規定されているものの、「事務職員」が規定されていない。他のセンター組織等の内規同様、事務職員の設定の必要性の有無について検討した方が良いのではないかと。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))

「実行プラン01B1・03A2」の自組織プランは、他部署との連携のうえ進める業務であるが、学内のニーズの把握と、BIツールを活用した情報提供が計画されており、適切であると判断する。他部署との連携のうえ、実施されるよう期待する。

#### 所見(指摘・改善への助言)【入試部委員会】

(2023年度アジェンダ)

2023年度アジェンダの内容は概ね妥当である。特に学生募集の回復のための具体的な行動指針を明記し、具体的な対応を計画しており、適切と判断できる。

#### 所見(指摘・改善への助言)【教務部委員会】

(2022年度アジェンダ総括)

Q3やQ5について、それぞれの結果となった理由について言及されており、次年度以降の改善が期待される。Q11についても課題の認識はなされているので、2022年度における解釈があると「2023年度アジェンダ」とのつながりが明確となると思われる。

(2023年度アジェンダ)

「2022年度のアジェンダ総括」で挙げられた課題について具体的な対応が示されており、適切と判断される。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))



いずれの項目についても、他部署との連携を含めた具体的な内容が記されており、適切と判断される。

#### 所見(指摘・改善への助言)【学生生活部委員会】

(2022 年度アジェンダ総括)

食堂アンケートを実施するなど、2022 年度アジェンダで提起した案件を着実に実施してきたことは評価できる。継続案件は、ハラスメント対応など簡単には解決できないものがあることは理解できる。

(2023 年度アジェンダ)

アフター・コロナ状況が定着したことを受けて、学生生活支援のあり方を、学友会、食堂などを含め、再検討していくことを期待する。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023 年度))

学生エンパワメントセンターを中心とした自組織プランは、体系的である。

#### 所見(指摘・改善への助言)【キャリアデザイン部委員会】

(2022 年度アジェンダ総括)

「イマゼミ」、「社会人基礎力って何だ?」、およびインターンシップなど多様なプログラムを実施し、学生の能力・関心を高めている。インターンシップは目標人数を超えたが、キャリアガイダンスへの受講者が目標より少なくなっており、受講者増のための具体的な対応が求められる。指摘・改善への提案としては、学生自身による「チームワーク・リーダーシップ」、「数量的スキル」の低い評価をどのように高めていくかが課題として挙げられているが、「数量的スキル」については、「デジタル・シティズンシップ科目」との連動などの検討も必要かもしれない。

(2023 年度アジェンダ)

2022 年度総括で記されたキャリアガイダンスの参加者の少なさについて「20%」と明示されており、

「対面での実施」という変更とともに目標達成のための具体的な動きがみられることが期待される。指摘・改善への提案としては、4月に締結された一般社団法人埼玉中小企業同友会との包括協定を軸に、「地元成長企業就職プログラム(仮称)」が展開される予定とされており、着実な実施とともにその効果の検討についても計画がなされるとよい。

卒業生の進路決定率が低い水準にあることが示されているが、その反省のもとに「就職活動率」を年内に 80%とすることが挙げられており、具体策としての学科担当者やキャリアカウンセラーとの連携を実のあるものとしてもらいたい。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023 年度))

内容は概ね妥当である。「2023 年度」アジェンダに記された内容は、「聖学院ビジョン実行プラン」と連動したものとなっている。

#### 所見(指摘・改善への助言)【FD・SD 委員会】

(2022 年度アジェンダ総括)

Q2 の FD に関しては、大学院 FD にとりかかったところであり、担当者を決定するなど組織的な体制づくりがなされたと判断される。また、ティーチングポートフォリオ導入について具体的な動きがみられている点も適切さの表れと考えられる。次年度以降にさらに展開されることが期待される。

Q3では「3」との回答であり、SDの活性化について各部署での研修会の開催などにより一定の成果が見られているが、課題を残す部分もあるためさらなる充実をさせてほしい。

(2023年度アジェンダ)

FDに関しては、情報共有の手段を確保し、各部署での取り組みを有効に活用することが重要である。また、「学修成果の可視化」「カリキュラムの体系化」「ICT活用」といった具体的な目標が設定されていることにより、実行性が高いものとなっている。2023年度の「アジェンダ総括」を行う際に、その成果が示していただきたい。

SDに関しては、2022年度で実現された取り組みを組織的なものに移行させていくことは有意義である。大学を取り巻く環境が厳しい中、高等教育にかかる情勢や大学経営の観点は必要性が高く、充実したものとなるよう期待したい。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))

「2023年度アジェンダ」にあるとおり、FD・SDの取り組みは「聖学院ビジョン実行プラン」と連動したものとなっている

#### 所見(指摘・改善への助言)【大学総務課】

(2022年度アジェンダ総括)

2022年度アジェンダ総括の内容は妥当である。特に2022年度アジェンダに掲げた事業計画どおり、キャンパス全体のLED化、手洗改修、図書館空調入替を実施したことは、評価できる。

(2023年度アジェンダ)

すみれ館解体、漏水修繕などの突発的な事態や予算圧縮などにより、事業計画通りには進まない状況ではあるが、引き続き、長期的な方針の検討が望まれる。

(聖学院ビジョン自組織プラン(2023年度))

「実行プラン 03B2」に対する自組織プランに掲げている「都道府県の補助金の積極的な活用」については、学内への情報提供や関連部署との連携により、推進していただきたい。

### 3. 内部質保証推進IR委員会による改善指示

各組織による 2022 年度自己点検・評価は概ね妥当である。また、全学評価委員会による 2022 年度自己点検・評価の確認内容、2022 年度アジェンダ総括及び 2023 年度アジェンダの確認内容について、妥当であると判断する。各組織は、全学評価委員会の指摘・改善への助言を踏まえて、2023 年度アジェンダを推進し、改善活動を行っていただきたい。

特に 2023 年度においては、学部学科・研究科のアジェンダ・自組織プランにも記載されているとおり、2023 年度入試結果の分析に基づいて立案された学生募集に関する計画を履行していただきたい。また学科教員と入試・広報課職員において入試戦略を共有し、具体的方策を実現していただきたい。なお、2021 年度自己点検・評価において、政治経済学科・日本文化学科より自己点検・評価項目に関する意見が述べられたが、2022 年度自己点検・評価においても、全学評価委員から本制度についての意見が述べられた。本制度については、実施後の微修正を施すため、2 年以内の修正を行うことを制度改定時の付帯事項としている。今年度、学内の意見及び学外の内部質保証体制の情報を収集し、制度改定を検討する。

以上

## 聖学院ビジョン 2023-2027 大学実行プランの件

聖学院大学内部質保証推進 IR 委員会

### 1. 学校法人聖学院における中長期計画「聖学院ビジョン」について

<聖学院ビジョン 2018-2023>

学校法人聖学院は、2018年に第1期中長期計画である聖学院ビジョン 2018-2023を策定した。

学校法人聖学院理事会は2017年12月長期構想委員会を設置し、「聖学院ビジョン」の大綱を整理し、2018年6月に聖学院ビジョンを策定した。

聖学院ビジョン「将来の日本及び国際社会に貢献する人間を育成」、2018-2023 キーメッセージ「誰一人取り残さない」世界の実現を目指して」に基づき、経営分野6項目からなる経営アクションプランと、各校・園が作成・推進・実施する教育アクションプランを策定、理事長室会議においてビジョン実行計画の作成及びアクションプランの進捗管理を行った。

聖学院ビジョン <https://www.seig.ac.jp/vision/>

聖学院ビジョン年次報告書 [https://www.seig.ac.jp/report/vision\\_report/](https://www.seig.ac.jp/report/vision_report/)

<聖学院ビジョン 2023-2027>

学校法人聖学院理事会は、2023年6月に第2期中長期計画である聖学院ビジョン 2023-2027を策定した。第2期は、第1期に引き続き、理事長室会議においてビジョン実行プラン検討が行われ、2023年3月策定、2023年6月にビジョンブックを刊行した。

### 2. 聖学院大学における「聖学院ビジョン 2023-2027」サブキーメッセージについて

理事長室会議からの依頼のもと、聖学院大学・聖学院大学大学院では学長企画会議を中心に2022年より聖学院ビジョンを実現するための実行プラン及びサブキーメッセージを策定した。ビジョン及びキーメッセージ、サブキーメッセージは以下のとおりである。

聖学院ビジョン 2023-2027 キーメッセージ	「将来の日本および国際社会に貢献する人間を育成」 ～「誰一人取り残さない」世界の実現を目指して～
大学サブキーメッセージ	「豊かな人間力（共感力・対話力・実践力）を養成し、市民社会の各分野で、専門性とコミュニケーション力をもって貢献できる人間を育成する」
大学院サブキーメッセージ	「高度な専門的知識をもち世界と社会に貢献しうる、豊かな精神性のある人間を育成する」

### 3. 聖学院大学における「聖学院ビジョン 2023-2027」大学実行プラン、2023 年度計画について

2022 年 10 月に法人理事長室会議より各校に実行プランの作成依頼があり、大学内で清水正之理事長・学長(当時)の指示の元、学長企画会議内に小池茂子副学長を中心とする実行プラン作成ワーキンググループを作成し、検討を行った。2022 年 12 月・2023 年 1 月に学長企画会議で実行プラン案を承認し、実行プラン案については、2023 年 1 月に大学教職員新年研修会で、小池茂子副学長より大学教職員に大学実行プランの概要について説明がなされた。大学実行プランは、重点実施項目「01 教育研究質向上」「02 施設設備整備」「03 財政戦略」「04 人材・運営体制」「05 広報戦略・情報公表」に対して作成した実行プランに対して、学内各組織を担当組織として配置している。

大学実行プランを実現するため、内部質保証体制のもとで実行プランに対する自組織プラン策定を行うことを 2022 年 12 月内部質保証推進 IR 委員会において決定した。2023 年 2 月、内部質保証推進 IR 委員会の指示の元、全学評価委員会より学内各組織に対し、2022 年度自己点検評価・2022 年度アジェンダ総括・2023 年度アジェンダとともに、2023 年度自組織プランの策定を依頼し、2023 年 5 月に各組織より提出がなされた。

全学評価委員会は、各組織から提出された 2022 年度自己点検評価・2022 年度アジェンダ総括・2023 年度アジェンダ・2023 年度自組織プランを全学的観点から評価し、2023 年 6 月に、内部質保証 IR 委員会において評価案を報告し、審議を行ったうえで、2023 年 7 月大学教授会において審議結果の報告と改善指示を行う。

